

【編集後記】「相次ぐ住宅火災」

このところ毎日のように悲惨な住宅火災のニュースを目にする。それぞれの住宅に住宅用火災警報器（住警器）は設置されていたのか、設置されていた住警器は適切に作動したのかとても気になるところである。

住宅火災による死者数は、住警器の設置が義務付けられたこともあり、平成 17 年の 1,220 人をピークに年々下がり続け、平成 28 年に 900 人を切るまでになったが、ここに来て下げ止まりの感がある。死者数に占める 65 歳以上の高齢者の割合は最近では 7 割を占めるに至っており、高齢者の世帯が今後も増え続けることを考えると、死者数が再び増加に転ずるのではないかと危惧される。

住警器の設置率は全国平均で 80% を超えるところまで来ているが、最近は頭打ちになりつつあり、また、地域ごとに見るとまだまだ設置が進んでいないところも多い。設置率の更なる向上と古くなった住警器の交換の促進も含め、住宅防火対策のより強力な取組が求められる。

地域防災に関する総合情報誌 **地域防災** 2019年2月号（通巻24号）

■発行日 平成31年2月15日

■発行所 一般財団法人日本防火・防災協会

■編集発行人 西藤 公司

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-16（日本消防会館内）

TEL 03 (3591) 7123 FAX 03 (3591) 7130

URL <http://www.n-bouka.or.jp>

■編集協力 近代消防社